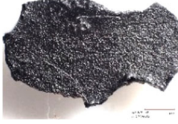
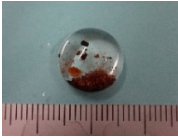


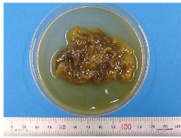
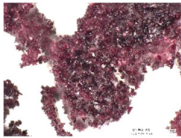
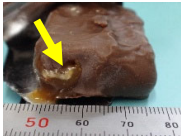


食品の苦情品等検査結果（令和7年度）

令和7年度、各区福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品で、原因究明のために検査依頼があったのは、13件21検体(参考品を含む)でした。相談の内容は様々ですが、異物混入が多数を占めました。主な検査結果は次のとおりです。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
親子煮中の異物 	給食の親子煮中から、針金様の異物が発見された。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 磁性結果	全長約18mm、断面0.48mm×0.3mm、重さ19.3mgの所々が湾曲した針状異物。 金属光沢を有し、全体的にスジ状模様が認められた。両先端は三角形に尖っており、所々に無色透明の膜状物質が乖離している様子が観察された。 表面は滑らかであり、各所で膜状物質が乖離している様子が観察された。 膜状物質が乖離した部分からは亜鉛、炭素及び鉄が検出され、膜状物質からは炭素、塩素及び酸素が検出された。 磁性が認められた。 亜鉛、炭素、鉄を成分とする金属片と推定された。
給食中の異物 	給食喫食中に、口腔内から硬質異物が発見された。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析結果	大きさ7.0×1.8mm、3.2×1.6mm、3.4×1.3mm、2.2×1.2mm、総重量18mgの乳白色骨片様異物4個。長辺の両辺縁がやや丸まっていた。水に入れると沈んだ。 表面は滑らかで微細なスジが認められ、反対面の一部には赤褐色部分及び微細な気泡状構造が観察された。 表面に多孔質構造が観察された。 炭素、酸素、カルシウム及びリン等が検出された。 骨と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 骨の欠片と推定された。
しらす中の稚魚の鑑定 	購入したしらす干し中にフグ様の稚魚が発見された。	外観 顕微鏡 遺伝子解析結果	大きさ約22×5mm、重さ100mgのフグに似た稚魚1個体。 腹部の膨張、小棘の密生及びクチバシ状歯が確認された。 シロサバフグの遺伝子配列と一致した。 稚魚はシロサバフグであると推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ピザ中の異物 	購入したピザを喫食中に硬質異物が認められた。ピザ裏面全体に黒色異物が付着していた。	外観 マイクロ스코ープ 元素分析 赤外分光分析 鉄分定性 燃焼性 結果	大きさ約20cm×9～14cmにカットされた三角形のピザ5ピースが搬入された。それぞれのピザの裏側には、大きさ約1mm～10mmの薄い不定形の黒色異物が多数付着していた。黒色異物を取り出し、乾燥させてから力を加えると、容易に破砕された。全体的に細かな凹凸構造が観察された。炭素及び酸素が検出された。植物油と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。陰性(鉄のチオシアン酸反応) 黒色異物を加熱すると炭水化物燃焼時と同様の臭気を呈し、白色に灰化した。炭水化物や植物油などの有機物が炭化したものと推定された。
飲用水中の異物 	水道水中に黒色及び褐色の微細異物が発見された。	外観 マイクロ스코ープ 電子顕微鏡 元素分析 結果	大きさ1mm未満～約3mmの赤褐色異物が多数確認された。水中では沈殿していた。大きさは不均一で、多数の赤褐色異物のほか、白色と黒色粒子も観察された。表面は内面と異なる組成の物質で覆われている様子が観察された。表面からは主成分として炭素、酸素、鉄が検出され、微量成分としてマグネシウム、アルミニウム、ケイ素等が検出された。裂け目から内部の組成を確認したところ、表面よりも高い比率で鉄が検出された。鉄さび(酸化鉄)を主成分とする異物と推定された。
肉じゃが中の異物 	給食の肉じゃがが喫食中に硬質異物が発見された。	外観 マイクロ스코ープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ13×5.5mm、重さ36mg、厚さ1mmの乳白色薄片状の硬質異物。所々に赤茶色の部分が観察された。水、エタノールに入れると沈んだ。ハサミで切断すると割れて層状に剥がれた。一方向に走る筋状の亀裂及び多数の孔が観察された。反対面は滑らかで、凹凸が観察された。辺縁部には半透明の層状構造が観察された。多孔質の構造が観察された。層状に剥がれた面は細かなスジと網目状の構造が観察された。炭素、酸素、窒素、カルシウム及びリンが検出された。骨と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。骨の欠片と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
給食中の異物 	給食のカレーピラフの具に金属異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 磁性結果	大きさ約8mm×1mm、重さ6.7mgの銀色金属様異物。 金属光沢を有し、全体的にスジ状模様が認められた。反対面には皺模様が見られ、その中に黄色の付着物や黒ずんでいる箇所が見られた。 スジ状模様部は全体的に平滑であったが、皺模様部では表面がひび割れた状の構造を有していた。 主成分としてアルミニウムが検出され、炭素、酸素、鉄等も検出された。 磁性は認められなかった。 アルミニウムを主成分とする金属片と推定された。
マンゴー果汁入り飲料中の異物 	開封後、室内にて保管・飲用していた当該品について、開封5日後にコップへ注いだ際、黒色の毛髪様異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 結果	重さ約14g、暗い黄緑色～緑褐色で流動性があり、形状が一定しない、ぬめりを伴った半固形異物。非常にやわらかいが、膜のようなものに包まれている。 白色または褐色の菌糸及び胞子のう様構造が多数観察された。 菌糸及び胞子のう様構造が観察された。毛は認められなかった。 カビのかたまりと推定された。
ブルーベリージュースの瓶の付着物 	飲用後のブルーベリージュース瓶の内壁に、塗装様物質の付着及び一部に剥離が確認された。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 pHによる変化 結果	瓶の内壁に暗紫色の付着物を広範囲に認めた。付着物は、瓶に水を入れて振ると容易に剥がれ、粒子状となった。 取り出した付着物を拡大観察した結果、暗紫色の結晶が多数確認された。 主成分として炭素及び酸素が検出され、微量成分として窒素が検出された。 ブルーベリーと類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 50%エタノール水で付着物を溶解した液について、pH変化に伴う呈色反応を観察した。酸性条件下では赤色、アルカリ性条件下では緑色を呈し、ブルーベリーに含まれるアントシアニン色素と同様の挙動を示した。 ブルーベリーの成分と推定された。
チョコレート菓子中の異物 	食品に乳白色の虫様異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	長さ約7mm、乳白色の半固形異物。 異物は液状化しており、固形物は確認できなかった。断面観察により、異物と色調が類似する下層原料からの流出が示唆された。 異物と断面から採取した類似の色調部分を分析した結果、いずれも糖類と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 内部から流出してきた糖類と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ウィンナー中の異物 	ウィンナー喫食時に、硬質異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約6mm×5mm、厚み1.3mm、重さ21.5mgの白色プラスチック様異物。水に入れると浮いた。 表面は全体的に平滑であり、場所によって滑らかな弧を描いている箇所や削り取られたような跡が観察された。 破断面と思われる箇所にはスジ状の空隙が観察された。 主成分として炭素が検出され、部分的に酸素が検出された。 ポリスチレンと類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 ポリスチレンの破片と推定された。
カレー中の異物 	給食のカレー(配膳前)をおたまで混ぜたところ、異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	大きさ約6×1mm、重さ1mgの青色樹脂様異物。水に入れると浮いた。 異物は青色で、部分的に色の濃淡があり、黒色の小さな付着物が点在していた。表面は不規則な凹凸であるが、比較的平滑な箇所も認められた。端部にはギザギザした破断面が観察された。 ポリプロピレンと類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
寿司中の異物 	寿司ネタにごく小さな黒色物質が付着していた。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 結果	大きさ約1×1mm、黒色の微小物質。 全体は褐色～黒色を呈し、不規則な形状をしていた。所々に白色や紫色の部分も確認された。 表面には多数の細かい凹凸が確認されたが、菌糸などのカビに特徴的な構造は認められなかった。また、対照品の海苔の細胞構造と一致しなかった。 主成分として炭素及び酸素が検出され、少量の塩素、ナトリウム、窒素、硫黄等も検出された。 窒素や硫黄を含む有機物と推定された。

【 検査研究課 理化学(添加物含有物)担当 】